新しい天と新しい地

黙示録１９章～２１章８節

黙示録１９章

黙示録１９章は、２つのポイントで構成されています。
① 19:1-10 – バビロンが滅ぼされたことへの喜びと小羊の婚宴
② 19:11-21- イエス様と天の軍勢が悪を倒し、神の民を救う様

黙示録１９章１–１０節

黙示録 19:1-10 は、黙示録 17-18 章に始まるバビロンへのさばきと、イエス様と天の軍勢がついに悪を倒す場面（黙 19:11-21）の幕間のようにして書かれています。

ハレルヤ！

新約聖書の中で、ハレルヤという言葉が出てくるのは黙示録１９章だけです。

ハレルヤという言葉はヘブライ語の二つの言葉からできています。
✧ Halal = 賛美する (to praise)
✧ Yah = 主を（Yahweh）

天の大群衆、二十四人の長老、四つの生き物、大群衆が賛美するもの
✧ バビロンにさばきがくだされた（黙 19:1）
✧ バビロンは焼き尽くされた（黙 19:3）
✧ 天の大声への賛同（黙 19:4）
✧ 全能なる神様の支配が始まった（黙 19:6）

喜び楽しもう

*「わたしたちは**喜び楽しみ**、神をあがめまつろう。小羊の婚姻の時がきて、花嫁はその用意をしたからである。」（黙 19:7）*

「喜び楽しむ」。この言葉は、新約聖書の中で二回出てきます山上の垂訓を開いてみましょう。

*「**喜び、よろこべ**、天においてあなたがたの受ける報いは大きい。あなたがたより前の預言者たちも、同じように迫害されたのである。」（マタイ 5:12）*

幾世紀にもわたって神様の民を励まし続けたイエス様の言葉が、ついに報われることが黙示録 19:7 には書いてあります。

小羊の婚宴

小羊の婚宴をより深く理解するために、ユダヤ人たちの結婚までのプロセスを学んでみましょう。

二人の愛し合う男女は、結婚して二人で一緒に住み始める前に、花嫁の父の家に行き、婚約式を行い、結納金を支払います。この婚約式の後、二人は花婿と花嫁として認められます。しかし、二人にはまだ一緒に住むところがありません。ですから、花婿は彼の父の家に戻り、彼と花嫁が父の家に共に住むことができるように、住むところを準備します。この間、花嫁は花嫁の父の家に残り、結婚式へ向けての準備（花嫁修業）を行います。そして、ついに住むところの準備ができた時に、花婿は花嫁を彼女の家に迎えに行き、結婚式が行われる花婿の父の家に連れて行くのです。

イエス様がこのことについてはっきりと、このように言っています。

「わたしの父の家には、すまいがたくさんある。もしなかったならば、わたしはそう言っておいたであろう。あなたがたのために、場所を用意しに行くのだから。そして、行って、場所の用意ができたならば、またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう。わたしのおる所にあなたがたもおらせるためである。」（ヨハネ 14:2-3）

イエス様がここで語られた言葉は、当時婚約の時に花婿が言う決まり文句でした。

花嫁が「光り輝く、汚れのない麻布の衣を着ることを許された」事実は、私たちの準備の完了は私たちの義によらず、イエス様の義を受け入れ、救われた者として生きることによるものであることを示します（黙 3:18; ガラテヤ 2:20）。

イエス様は、十字架にかかることによって、結納金（罪の支払う報酬）をすでに収められました。イエス様は、住むところの用意ができたらすぐに迎えに来られます。私たち花嫁は、花婿が迎えに来る前に準備をしなくてはいけないのです。

預言の霊

「…イエスのあかしは、すなわち預言の霊である。」（黙 19:10）

パウロは、キリストの奥義が「御霊によって彼の聖なる使徒たちと預言者たちとに掲示されている」と言いました (エペソ 3:2-6)。

黙示録 12:17 には神様の残りの民が「イエスのあかしを持っている」と書いてあります。また、ヨハネは黙示録についてこう言っています。

*「イエス・キリストの黙示。この黙示は、神が、**すぐにも起るべきこと**をその僕たちに示すためキリストに与え、そして、キリストが、御使をつかわして、僕ヨハネに伝えられたものである。ヨハネは、神の言と**イエス・キリストのあかし**と、すなわち、自分が見たすべてのことをあかしした。」（黙 1:1-2）*

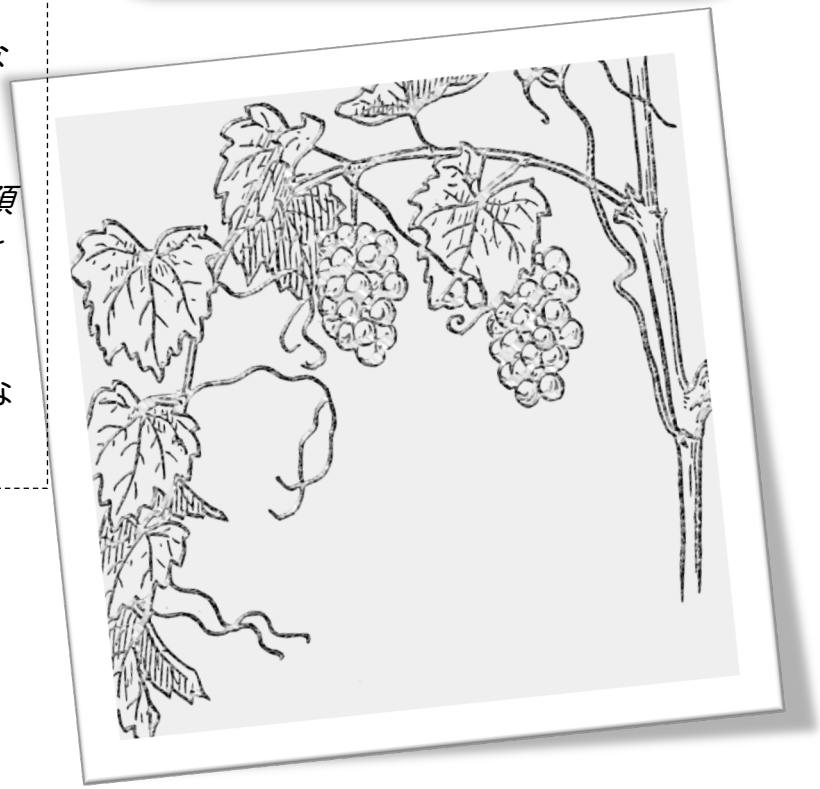
*「彼はまた、わたしに言った、『これらの言葉は信ずべきであり、まことである。預言者たちのたましいの神なる主は、**すぐにも起るべきこと**をその僕たちに示そうとして、御使をつかわされたのである。」（黙 22:6）*

このことは、「イエスのあかし」はイエス様が地上にいた時に語られたことだけでなく、黙示録に書かれている**すぐにも起るべき**ことも含まれることを示しています。

キリストの奥義

それは、異邦人が、福音によりキリスト・イエスにあって、わたしたちと共に神の国をつぐ者となり、共に一つのからだとなり、共に約束にあずかる者となることである。

（エペソ 3:6）



黙示録１９章１１–２１節

黙示録 19:1-10 の幕間は突然終わり、アルマゲドンのクライマックスに場面は戻ります。

忠実で真実な者

白い馬に乗った「忠実で真実な者」はまさにイエス様のことです（黙 3:14; 19:11; ダニエル 12:1）。

「燃える炎」の目は黙示録 1:14 のイエス様の描写を思い出させます。

だれも知らない名

イエス様の名前は「神の言」です（黙 19:13）。これには２つの意味があるでしょう。

① イエス様自身が神の言であり、命である（ヨハネ 1:1-5）
② 終わりの時に備えさせる預言の言葉（黙 1:9; 6:9; 20:4）

血染めの衣

まだ戦いは始まっていないのに、衣が血に染まっていることは、わたしたちに、イエス様が歴史上の全ての神の民のために戦ってくださることを教えてくれます（黙 17:6）。

鉄のつえ：昔羊飼いたちは取っ手が鉄でできている杖を持っていました。それは、羊たちを狼の野獣などから守る時に使うためでした。

天の軍勢

イエス様は再臨の時に天使と共に、神の民を迎えに来ると言われました（マタイ 24:30-31）。黙示録 17:14 には、聖なる者たちも小羊と共に勝利を得ると書いてあります。つまり、天の軍勢は天使たちと聖なる者たちと考えることができます（Ranko Stefanovic）。

実際には、聖なる者たちは地上でイエス様の再臨を待っています（第一テサロニケ 4:16-17）、しかし**霊的**にはすでに「キリスト・イエスにあって、共によみがえらせ、共に天上で座につかせてくださっ」ているのです（エペソ 2:6）。

神の大宴会

鋭いつるぎ（黙 1:16）と鉄のつえ（黙 12:5）を持ったイエス様は、怒りの酒ぶねを踏まれます（黙 14:17-20）。

王の王、主の主であるイエス様は、いよいよ戦いに勝利を収めます（黙 19:17-21）。バビロン（獣）、獣の刻印を受けた者、獣の像を拝む者、またにせ預言者は火と硫黄の池に投げ込まれます（黙 19:20）。それは、小羊の婚宴とは対照的です。私たちは、小羊の婚宴の招きを受けるか、神の大宴会（皮肉にも鳥のえさに自分たちがなる）のメニューになるか選ばなくてはいけません。

しかし、サタンはどうなったのでしょうか？続く黙示録２０章では、サタンの運命と大争闘の最終結末について書いてあります。

千年期

黙示録 20:1~21:8

黙示録 20:1~21:8 は時系列で書かれているのではなく、一つのクライマックスについて４つの別々の視点から書いてあります。

４つの焦点

① サタンと地球（黙 20:1-3）
② 聖なる者たち（黙 20:4-10）
③ 地上の悪人へのさばき（黙 20:11-21:1）
④ 聖なる都での生活（黙 21:2-8）

①　サタンと地球 (20:1-3)

底知れぬ所

底知れぬ所 = *abussos (ギリシャ語)*

*地は形なく、むなしく、やみが**淵(abussos)**のおもてにあり、神の霊が水のおもてをおおっていた。(創 1:2)*

ギリシャ語訳の旧約聖書では、同じ言葉が使われています。

“底知れぬ所”は、創造以前の混沌とした状態を想像させます。黙示録１６章に書かれている「最後の七つの災害」では、地球が想像以前の状態に戻されていく様を見ることができます。

＊詳しくはスタディガイド「７つめの鉢が傾くまえに」参照

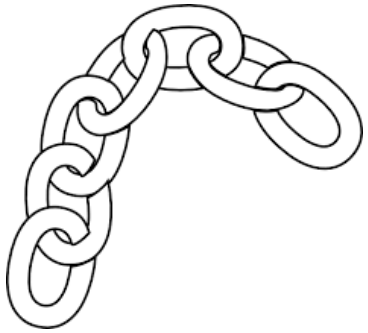
預言者エレミヤとイザヤによる千年期中の地球の描写は、黙示録 20:1-3 を私たちが理解するのを助けてくれます。

✧ エレミヤ 4:19-26
✧ エレミヤ 25:30-38
✧ イザヤ 24:1-6

地球につながれるサタン

人間がいなくなった地球に、サタンは一人残されます。惑わす人間がいなくなってしまったサタンにとって、千年間はまさに「地球につながれ、身動きができない」状態です（黙 20:5）。それは、贖罪日に全ての悪の根源として荒野に放たれるアザゼルのヤギを思い出させます（レビ記 16:21-22）

しかし、聖書はサタンが「その後、しばらくの間だけ解放される」と言っています（黙 20:3）。



②　聖なる者たち (20:4-10)

聖なる者たちと再臨

イエス様が天から下ってこられる時、キリストにあって死んだ聖なる者たちが最初によみがえり、それから生き残っている聖なる者たちと共に雲に包まれ、空中でイエス様と出会います（第一テサロニケ 4:16-17）。

イエス様は、「わたしの父の家には、すまいがたくさんある…場所の用意ができたならば、またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう…」（ヨハネ 14:1-3）と言われました。

こうして、聖なる者たちはイエス様と共に千年の間、聖なる都に住むのです。

聖なる都はどこにある？

黙示録 20:4-10 には、聖なる者たちが千年の間どこにいるのかははっきりと書いてありません。しかし、黙示録 21:2 に答えがあります。

*「また、**聖なる都、新しいエルサレム**が、夫のために着飾った花嫁のように用意をととのえて、神のもとを出て、**天から下ってくる**のを見た。」（黙 21:2）*

このように、聖なる者たちは天にある聖なる都に住むのです。

天国ですること

聖なる者たちは、天に上げられた後、何をするのでしょうか？黙示録 20:4 には聖なる者たちに「**さばきの権**が与えられていた」と書いてあります。では、誰をさばくのでしょうか？黙示録 20:6 には、聖なる者には「第二の死はなんの力もない」と書いてあります。これは、聖なる者がさばくものは地上に残された者、すなわち「サタンと第一の復活に預からない者（聖なる者たち以外）」であることを示しています。パウロはこのように言っています。

「それとも、聖徒は世をさばくものであることを、あなたがたは知らないのか…わたしたちは御使をさえさばく者である。ましてこの世の事件などは、いうまでもないではないか。」（第一コリント 6:2-3）

さばいてもいいの？

イエス様は、はっきりと言われました。「人をさばくな。自分がさばかれないためである」（マタイ 7:1-5）。しかし注目すべき所は、地上では全ての人が平等に罪人であるということです。罪の贖いが終わり、天に上げられた聖なる者たちの罪の支払う報酬はイエス様によって支払われました。こうして、パウロの言ったように聖なる者たちは天で「さばきの権」が与えられるのです。

② 聖なる者たち (20:4-10)　続き

第一の復活にあずかる者と、あずからない者がイエス様の再臨後にそれぞれどのような運命をたどるのかを下にまとめてみました。

第一の復活にあずかるもの（聖なる者）

第一の死 → 第一の復活（再臨） → 千年期（天） → ✕ → 永遠の命（神の国）

第一の復活にあずからないもの

第一の死 → ✕ → 千年期（地球） → 復活とさばき → 第二の死（永遠の死）

第一の復活にあずからない者の最後

千年期が終わった後、サタンは鎖から解放されます（黙 20:7）。それは、第一の復活にあずからなかった者たちが、いまや復活したことを表しています（黙 20:5）。この者たちの数は、「海の砂」のように多く（黙 20:8）、聖なる者たちと都を包囲しました（黙 20:9）。

再臨の時に集められた聖なる者たち（マタイ 24:31; 黙 14:15-16）は、数えられないほどの人々に囲まれます。勝利はサタンの方にあるように“見える”その時、突如「天から火が降ってきて、彼らを焼き尽く」すのです（黙 20:9）。そして、サタンと獣、またにせ預言者は、火と硫黄との池に投げ込まれ、第二の死を迎えるのです（黙 20:10）。

② 聖なる者たち (20:4-10)　続き

そして、彼らを惑わした悪魔は、火と硫黄との池に投げ込まれた。
そこには、獣もにせ預言者もいて、彼らは世々限りなく日夜、苦しめられるのである。(黙 20:10)

永遠に人々を苦しめる地獄の炎は存在するのでしょうか。聖書にその答えが書いてあります。

世々限りなく日夜

黙示録には「世々限りなく」という言葉が三回出てきます（黙 14:11; 19:3; 20:10)。この言葉は、創世記の中で神様がソドムとゴモラを「火と硫黄」（創 19:24）とで滅ぼし、「その地の煙が、かまどの煙のように立ちのぼっ」ている様をアブラハムが見た場面からの引用です（創 19:28)。

ユダの手紙には、このように書いてあります。*「ソドム、ゴモラも、まわりの町々も同様であって、同じように淫行にふけり、不自然な肉欲に走ったので、永遠の火の刑罰を受け、人々の見せしめにされている。」（ユダ 7 節）*

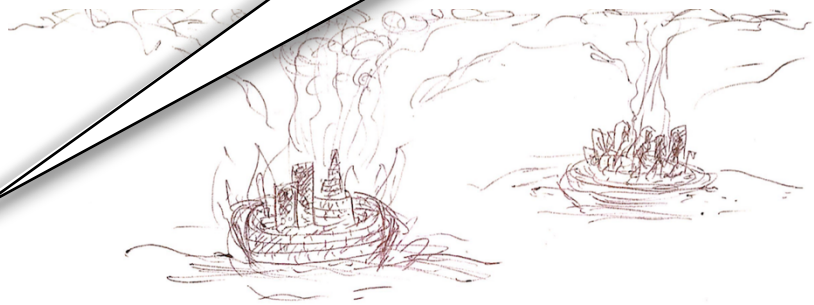
合わせて読むのをオススメ！
マラキ 4:1、マタイ 25:46、
オバデヤ 18、詩篇 9:5,6;
37:10,20,36

ソドムとゴモラは、確かに滅ぼされましたが私たちが今その立ちのぼる煙を見ることはありません。預言者イザヤは、黙示録２０章の場面についてこのように言いました。

「夜も昼も消えず、その煙は、とこしえに立ちのぼる。これは世々荒れすたれて、とこしえまでもそこを通る者はない。」（イザヤ書 34:10）

<u>このように聖書の「世々限りなく」という言葉は、永遠に続く火や地獄を表すのではなく、永遠の結果（焼き尽くす）を示しているのです。</u>

“火の目的は跡形もなく焼き尽くすことである。”
Desmond Ford



③　地上の悪人へのさばき (20:11-21:1)

黙示録 20:11-21:1 には、先の二つと同じ千年期におけるクライマックスについて書かれています。
そして、ここの焦点は「悪人へのさばき」です。

再臨の時に

「また見ていると、大きな白い御座があり、そこにいますかたがあった。天も地も御顔の前から逃げ去って、あとかたもなくなった。」(黙 20:11)

イエス様の御座が天に現われるのと同時に、山も島もあとかたもなく消え去ります。この場面は、黙示録６章１４–１７節に更に深く説明されています。

御座の前に立つ

黙示録２０章１２節には、千年期の間の場面が書かれています。“御座の前に全ての死んでいた者が立つ”ことは、その者たちが千年期の間に生き返るのではなく（黙 20:5)、それぞれの「しわざに応じ」開かれた「書物に書かれていることにしたがって」さばかれることを象徴しています（黙 11:18; 20:12)。

開かれた書物

二つの種類の書物が開かれます（黙 20:12)。
① かずかずの書物（行いの記録）
② いのちの書

天国にはいれる者は、「いのちの書に名をしるされている者だけ」です（黙 21:27; 黙 3:5; ダニエル 12:1)。

最終的なさばきは、書物が開かれた後に行われます（黙 20:12,15)。行いの記録に書かれていることを知り、そしていのちの書に自分の名前が書いてあるのか、書いてないのかを確認します。神様は人々が納得するまで、彼らを滅ぼすことはなさらないのです。

③ 地上の悪人へのさばき (20:11-21:1) 続き

黙示録 20:14-15 は黙示録 20:8-9 と同じ、クライマックスが書かれています。

それから、死も黄泉も火の池に投げ込まれた。この火の池が第二の死である。
このいのちの書に名がしるされていない者はみな、火の池に投げ込まれた。(黙示録 20:14-15)

信仰？行い？

一つの疑問が残ります。人はいったい何によって救われるのでしょうか？黙示録 20:12 には、「そのしわざに応じ」てさばかれると書いてあります。パウロはこのように言っています。

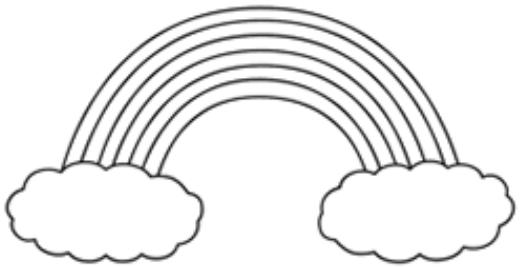
*「あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、**信仰**によるのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である。 決して行いによるのではない。それは、だれも誇ることがないためなのである。わたしたちは神の作品であって、**良い行いをする**ように、キリスト・イエスにあって造られたのである。神は、わたしたちが、良い行いをして日を過ごすようにと、あらかじめ備えて下さったのである。」 (エペソ 2:8-10)*

*「あなたがたは、人を**それぞれのしわざに応じて、公平にさばく**かたを、父と呼んでいるからには、地上に宿っている間を、おそれの心をもって過ごすべきである。」(第一ペテロ 1:17)*

このように、人が信仰によって救われることは明らかです。救いは信仰によるのであって、行いにはよりません。しかし、その人の信仰は行いによって示されるのです。
＊参照聖句―ヤコブ 2:26; ローマ 2:6; 創世記 15:6 他

さばきのあと

黙示録 21:1 は、黙示録２０章の結論として読むのが良いでしょう。最終的なさばきの後に、「新しい天と新しい地」が現れ「先の天と地とは消え去り、海もなくなってしまいます」(黙 21:1; 第二ペテロ 3:10-13)。



④　聖なる都での生活 (21:2-8)

また、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意をととのえて、神のもとを出て、天から下って来るのを見た。(黙示録 21:2)

聖なる都にいる聖なる者たち

聖なる者たちが、聖なる都にいるということは聖書を読むとわかります。

- ✧　聖なる者は、天に引き上げられたあと、「いつも主と共に」います（第一テサロニケ 4:16-17）
- ✧　聖徒たちと都は、サタンと千年期後に復活した人々によって包囲されます（黙 20:7-9）

時系列

黙示録 20:7-9 で、**聖徒たちと都**がサタンと千年期後に復活した人々に包囲される場面が出てきます。

このことから、黙示録 21:2 に書かれている“天から下って来る聖なる都”は、黙示録 21:1 に書かれている「新しい天と新しい地」が造られる前に起こったことがわかります。

約束

イエス様を選ばなかった人々へのさばきがくだる前、そして先の天地が消え去る前に、ヨハネは聖なる者たちにあたえられる約束を聞きます。(黙 21:3-8)

- ➢　これからは、神様が常に人と共にいる
- ➢　涙、死、悲しみ、叫び、痛みがない
- ➢　いのちの水の泉から価なしに飲ませる
- ➢　聖なる者は、神様の子となる

また、ヨハネはイエス様を選ばなかった人々への約束も聞きます。

- ➢　火と硫黄の燃えている池による第二の死

大まかな流れ

黙21:2 → 黙21:3-8 (黙20:7-9) → 黙20:14-15; 20:8-9 → 黙21:1

もっと詳しく！黙示録２１章１–８節

ここからは黙示録 21:1-8 に更に焦点を当てたいと思います。

文章構成

- 黙示録 21:1-8 – 聖なる都に焦点を当てた千年期の結末と新しい天と新しい地の概要
- 黙示録 21:9-22:5 – 聖なる都「新しいエルサレム」の説明

黙示録２１章はイザヤとエゼキエルから多く引用されています！例：イザヤ 65:17

新しい天と地

✧ 新しい = *kainos* (ギリシャ語)
- “古いものが廃れたので新しいものに置き換える”

黙示録 21:1-5 の中で４回使用される“新しい”という言葉は、“根本的に新しい”天と地とエルサレムが造られることを示しています。

しかし、主の日は盗人のように襲って来る。その日には、天は大音響をたてて消え去り、天体は焼けくずれ、地とその上に造り出されたものも、みな焼きつくされるであろう。しかし、わたしたちは、神の約束に従って、義の住む新しい天と新しい地とを待ち望んでいる。（第二ペテロ 3:10,13）

なくなった海

旧約聖書の中で、“海”はしばしば恐ろしい生き物がいる場所であると書かれています（ヨブ記 41 章; 詩篇 74:13-14; イザヤ 27:1; 51:10; エゼキエル 32:2）。黙示録の１３章に海から出てくる獣は、「底知れぬ所」から現れると書いてあります（黙 11:7; 17:8）。また、海（水）は「あらゆる民族、群衆、国民、国語」であるとも書いてあります（黙 17:15）。

このように、人々を苦しめる混沌と驚異である“海”は、先の天と地と共に消え去るのです（黙 21:2）

古いエルサレム

前のページで学んだように、「新しいエルサレム」が現れることはつまり、「古いエルサレム」を置き換える（古いエルサレムは完全に消えた）ことを表します。その昔、聖所があったエルサレムは「聖なる都」と呼ばれました（イザヤ 52:1; ダニエル 9:24; マタイ 27:53）。しかし、罪がはびこりエルサレムはついに破壊されます（マタイ 23:37-24:2）。

希望

パウロは、アブラハムの頃から待ち望まれた夢であった「新しいエルサレム」についての希望をこのように言っています。

「彼は、ゆるがぬ土台の上に建てられた都を、待ち望んでいたのである。その都をもくろみ、また建てたのは、神である。」（ヘブル 11:10）

「…彼らが望んでいたのは、もっと良い、天にあるふるさとであった…事実、神は彼らのために、都を用意されていたのである」（ヘブル 11:16）

「この地上には、永遠の都はない。きたらんとする都こそ、わたしたちの求めているものである。」（ヘブル 13:14）

新しいエルサレム

預言者イザヤは、「新しいエルサレム」のことをこのように言いました。

「昼は、もはや太陽があなたの光とならず、夜も月が輝いてあなたを照さず、主はとこしえにあなたの光となり、あなたの神はあなたの栄えとなられる。あなたの太陽は再び没せず、あなたの月はかけることがない。主がとこしえにあなたの光となり、あなたの悲しみの日が終るからである。」（イザヤ 60:19-20）

「新しいエルサレム」は、全ての歴史の中で神の民が待ち望み続けた永遠の都なのです。

神われらと共にいます

預言者エゼキエルは言いました。

*「わがすみかは彼らと共にあり、わたしは彼らの神となり、彼らはわが民(**people**)となる。」（エゼキエル 37:27）*

またヨハネは御座から大きな声が叫ぶのを聞きました。

*「見よ、神の幕屋が人と共にあり、神が人と共に住み、人は神の民(**peoples**)となり、神自ら人と共にいまして」（黙示録 21:3）*

ヨハネはエゼキエルの単数系の people という言葉を複数形の peoples に言い換えました。それは、新しいエルサレムで神様と共に住む人々は、**歴史上の全ての神の民**（黙 7:9）であることを示しています。

エゼキエルはこの都の名は**「主そこにいます」**であると言いました（エゼキエル 48:35）。

アルパでありオメガである

アルパ = *arche*（ギリシャ語）＝ “源”
オメガ = *telos* (ギリシャ語) ＝ “ゴール”

「わたしは、アルパでありオメガである」と言われたこの言葉は、“**全ての命は神様に始まり、神様を目指す**”ことを示します。

万物は、神からいで、神によって成り、神に帰するのである。
栄光がとこしえに神にあるように、アァメン。

ローマ 11:36

参照：Ranko Stenofanovic 著　*Revelation of Jesus Christ；*Stephen Bohr 著　The Wise Shall Understand 他